

収益力のある安足型水田経営の確立

■背景及び対応方向

管内では、担い手への農地集積は進んでおらず、集積された農地も分散し、集約化が大きな課題となっています。また、農地は小規模な区画が多い状況からコスト高の状態になっています。加えて、米価の下落等により収益力も低下しています。

このため、収益力のある安足型水田経営の確立に向け、プロ農家等の経営強化を図るとともに、農地集積・集約化による規模拡大や水田の大区画化・汎用化を推進します。また、新規需要米や二毛作による麦の生産を通して水田の高度利用を図ります。さらに、6次産業化など経営の多角化を推進します。

■主な指標

指標項目	現状(H26)		目標(H32)
経営規模50ha以上 ^{※1} の経営体数	5経営体	➡	8経営体
担い手への農地集積率	32%		65%
圃場整備（再整備）推進地区数	2地区		4地区
新規需要米の作付面積	465ha		1,100ha

※1 延べ作付面積

■取組方策

- プロ農家等の農業経営の強化・発展に向け、経営の高度化や法人化を推進します。
- 農地中間管理事業等を活用し、規模拡大を目指す経営体への農地集積・集約を推進します。
- 水田の大区画化・汎用化に対応した圃場整備（再整備）を推進し、効率の良い作業体系の確立とともに生産コストの低減を図ります。
- 水田の二毛作を推進するとともに、飼料用米や稲WCS等の新規需要米、そばの生産拡大と地域内流通の拡大に向けた体制づくりを支援します。
- 新規需要米における多収性品種の導入や作業管理支援システム等のICT導入による水田の工程管理の効率化を推進します。
- 大規模経営体や集落営農組織に対し、雇用労働力を活用した園芸作物の導入や6次産業化など、経営の多角化に向けた取組を支援します。
- 実需者とのマッチングを通じた契約栽培など、多様な販路拡大に向けた取組を推進します。

■取組の推進体制

